

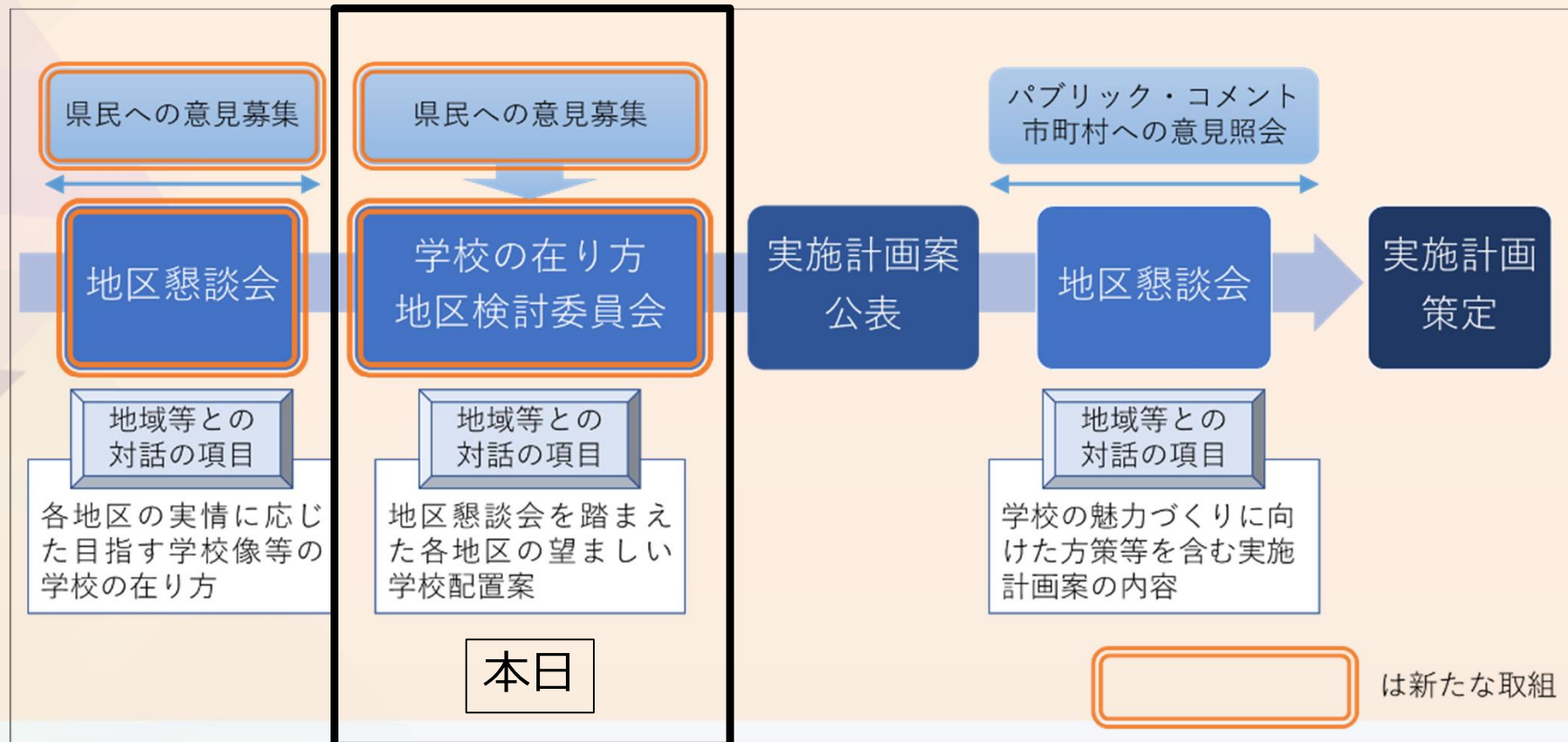
学校の在り方地区検討委員会（東青地区） 【第 1 回】



令和 7 年 1 1 月
青森県教育委員会

学校の在り方地区検討委員会の目的

青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針を踏まえ、実施計画策定に当たりあらかじめ地域の学校教育関係者等で地区の望ましい学校配置等を検討するため、地区ごとに学校の在り方地区検討委員会を設置



スケジュール（見込み）

学校の在り方地区検討委員会（令和7年度）	
	主な検討内容
第1回（11月）	(1) 学校の在り方 (2) 学校配置
第2回（1月）	(1) 第1回委員会における主な意見の確認 (2) 望ましい学校配置
第3回（2月）	(1) 第2回委員会における主な意見の確認 (2) 報告書（案）の確認

報告書の提出
（3月）

県教育委員会（令和8年度）
○前期実施計画案公表 ○前期実施計画案に対するパブリック・コメント、地区懇談会 ○前期実施計画策定（令和8年10月頃）

本日の流れ

1 事務局説明

- ・ 県立高等学校の配置の現状
- ・ 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み
- ・ 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

2 意見交換

- ・ 学校の在り方について
- ・ 学校配置について

I 事務局説明

①令和7年度の学校配置

- ：普通科及び普通科系の専門学科を有する高校
- ：職業教育を主とする専門学科を有する高校
- ：総合学科を有する高校

学校名：地域校



②令和9年度に生徒募集を行う学校（全日制）

募 集 学級数	東青	西北	中南	上北	下北	三八	計
6学級	青森 統合校 青森東 青森工業		弘前 弘前工業 弘前実業	三本木 三本木農業恵拓		八戸 八戸西 八戸工業	12校
5学級	青森北 青森商業	五所川原 五所川原工科	弘前中央 弘前南 黒石	三沢	田名部 統合校	八戸北 八戸東	12校
4学級	青森南 青森中央			十和田工業			3校
3学級		木造 五所川原農林	柏木農業	七戸 百石 三沢商業		八戸水産 八戸商業	8校
2学級					大間※	名久井農業	2校
1学級		鰺ヶ沢※		野辺地 六ヶ所※		三戸※	4校
学校数	8校	5校	7校	9校	3校	9校	41校
学級数	42学級	17学級	36学級	32学級	12学級	37学級	176学級

※ 地域校として配置されており、入学者数に応じて学級数が変動する可能性がある。

③令和9年度に生徒募集を行う学校（定時制・通信制）

	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗	五所川原	尾上総合	三沢	田名部	八戸中央
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

(2) 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業 予 定 者 数	R9	2,208人	827人	1,933人	1,442人	479人	2,265人	9,154人
	R14 (対R9)	1,894人 (△314)	756人 (△71)	1,816人 (△117)	1,343人 (△99)	392人 (△87)	2,027人 (△238)	8,228人 (△926)
	R19 (対R9)	1,489人 (△719)	552人 (△275)	1,399人 (△534)	1,086人 (△356)	285人 (△194)	1,508人 (△757)	6,319人 (△2,835)
県立高等学校 募集学級数	R9	42c1	17c1	36c1	32c1	12c1	37c1	176c1
	R14 (対R9)	36c1 (△6)	15c1 (△2)	34c1 (△2)	27c1 (△5)	11c1 (△1)	35c1 (△2)	158c1 (△18)
	R19 (対R9)	29c1 (△13)	11c1 (△6)	27c1 (△9)	22c1 (△10)	9c1 (△3)	26c1 (△11)	124c1 (△52)

※ 中学校卒業予定者数は、各年3月の見込み。

※ 地域校及び令和10年度に配置する地域共育校は、学級数が変動する可能性があるため、西北・上北・下北・三八地区においては、募集学級数に変動が生じることがある。

(3) 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

学校・学科		第2期 (R5～R9)		前期 (R10～R14)		後期 (R15～R19)		備考
		期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	期間内増減	R19学級数	
青森高校	普通	0	6					
東青地区統合校	普通	6	6					R9募集開始
青森西高校	普通	△ 6	0	—	—	—	—	R9募集停止
浪岡高校	普通	△ 2	0	—	—	—	—	R10年度末閉校
青森東高校	普通	0	6					
青森北高校	普通	0	4					
	スポーツ科学	0	1					
青森南高校	普通	△ 1	3					
	グローバル探究	1	1					
	外国語	△ 1	0	—	—	—	—	
青森中央高校	総合	△ 1	4					
青森工業高校	工業科	0	6					
青森商業高校	商業	0	5					
計		△ 4	42	△ 6	36	△ 7	29	

2 意見交換

(1) 学校の在り方について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

キーワードⅠ	こどもまんなか	〈4ページ〉
キーワードⅡ	地域とともにある高等学校	〈4ページ〉
キーワードⅢ	生徒の「行きたい」「学びたい」	〈7ページ〉
キーワードⅣ	本県が目指す人財の育成	〈3ページ〉

②現在の各県立高等学校に求められる役割 (スクールミッション)

※参考資料Ⅰを参照

③東青地区懇談会等における学校の在り方に関する意見

- ①本県の先頭に立ち将来の青森県を担いリーダーとして活躍する人財や、本県のみならず将来の日本を担う優秀な人財を育成する学校、②本県や地域の先頭に立ち本県や地域に貢献できる人財を育成する学校、③スポーツ等の学力以外で秀でた能力を伸長できる学校が必要である。
- 本人が抱える事情や家庭の事情等で学習に取り組めず、学校生活を送ることが難しい生徒もいる。こうした様々な事情を抱えた生徒にも、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける学習を保障し、社会で生きていくために広く必要となる資質・能力を育成する学校が必要である。
- グローバル探究科のIBコースの教育活動は、次期学習指導要領が目指すものと合致しているため、今後は、このような教育活動の更なる充実と他校への広がり期待している。

④意見交換に当たっての論点

- 地域にはどのような特色（産業、地理等）があるのか。
- キーワードや地域の特色等を踏まえ、地区においてどのような人財を育成する学校が必要なのか。
- 地域とともにある高等学校として、何を期待するのか。
また、地域としてどのような協力ができるのか。

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程〉

学校配置の観点 （P21）

○高等学校教育を受ける機会の確保

〈中学生の進路志望の選択肢の確保〉

６地区ごとに「大学等への進学や就職等、幅広い進路選択に対応する高校」、「多様な目標を持つ生徒同士の学び合いの機会を提供する高校」、「実践的な職業教育を提供する高校」、「柔軟な学びを提供する高校」等、様々な役割を担う高等学校を配置

〈通学環境への配慮〉

地理的要因から通学困難な地域が新たに生じないように配慮

○充実した教育環境の整備

生徒の進路志望等に応じた特色ある教育活動を更に充実させながら、各校の果たす役割を踏まえた教育環境の整備を進め、高等学校教育の質の確保・向上

(2) 学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程における学校配置の考え方〉（P22）

- 将来の中学校卒業予定者数の減少、中学生のニーズ、地域の産業、通学環境、国の高等学校教育改革の動向等を考慮しながら様々な役割を担う高等学校を配置
- 生徒の進路志望や興味・関心等の学習ニーズに応じた柔軟で質の高い学びを提供できる教育環境を整備するため、市町村における高等学校の配置状況等を考慮しながら統合等を含む計画的な学校配置について検討

〈定時制課程・通信制課程〉

定時制課程における学校配置の方向性（P23）

- 定時制課程については、6地区ごとの配置を基本

通信制課程における学校配置の方向性（P23）

- 通信制課程については、東青、中南及び三八地区の配置を基本

②令和１０～１４年度までの東青地区の学級数の減

４２学級から３６学級へ（６学級の減）

③東青地区懇談会等における学校配置に関する意見

- １校を集中的に学級減すると、学校規模が急激に小さくなり活力が失われ、充実した教育活動の展開が困難になることから、満遍なく学級減していくのがよい。
- 将来を見据えると統合もあり得る。県立高校の配置状況等を考慮すると、青森東高校、青森工業高校及び青森商業高校の統合が考えられる。
- こどもが減っているため統廃合は仕方ないが、一極集中しすぎている。せめて小規模の進学校を県内に満遍なく設置することはできないか。

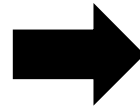
④これまでの統合の事例 I

〈黒石高校〉

普通科(3cl)
看護科(1cl)

2学科4学級

統合・新設



〈黒石高校〉

普通科(3cl)
情報デザイン科(1cl)
看護科(1cl)

3学科5学級

〈黒石商業高校〉

商業科(2cl)
情報処理科(1cl)
情報デザイン科(1cl)

3学科4学級



【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 生徒のキャリア教育の充実

④これまでの統合の事例2

〈金木高校〉

普通科(1cl)

1学科1学級

〈板柳高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈鶴田高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈五所川原工業高校〉

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

情報技術科(1cl)

4学科4学級

統合・新設

〈五所川原工科高校〉

普通科(2cl)

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

4学科5学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 工業科の生徒の普通教科の学習の充実

④これまでの統合の事例3

〈十和田西高校〉

普通科(1cl)
観光科(1cl)

2学科2学級

〈六戸高校〉

普通科(2cl)

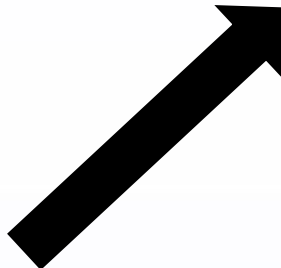
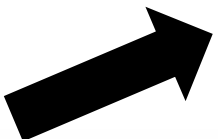
1学科2学級

〈三本木農業高校〉

植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
農業機械科(1cl)
環境土木科(1cl)
農業経済科(1cl)

5学科5学級

統合・新設



〈三本木農業恵拓高校〉

普通科(2cl)
植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
環境工学科(1cl)
食品科学科(1cl)

5学科6学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 農業科の生徒の普通教科の学習の充実

⑤意見交換に当たっての論点

【全日制課程】

- 基本方針、地区の学校の在り方、中学生のニーズ等を踏まえ、令和１４年度における県立高等学校募集学級数の見込みを前提に、各校の学級減や統合等を含め、どのような学校規模・配置が望ましいか。

【定時制・通信制課程】

- 生徒のニーズの多様化へ対応し、広く学習機会を提供するため、定時制課程・通信制課程の配置等を維持すべきか。

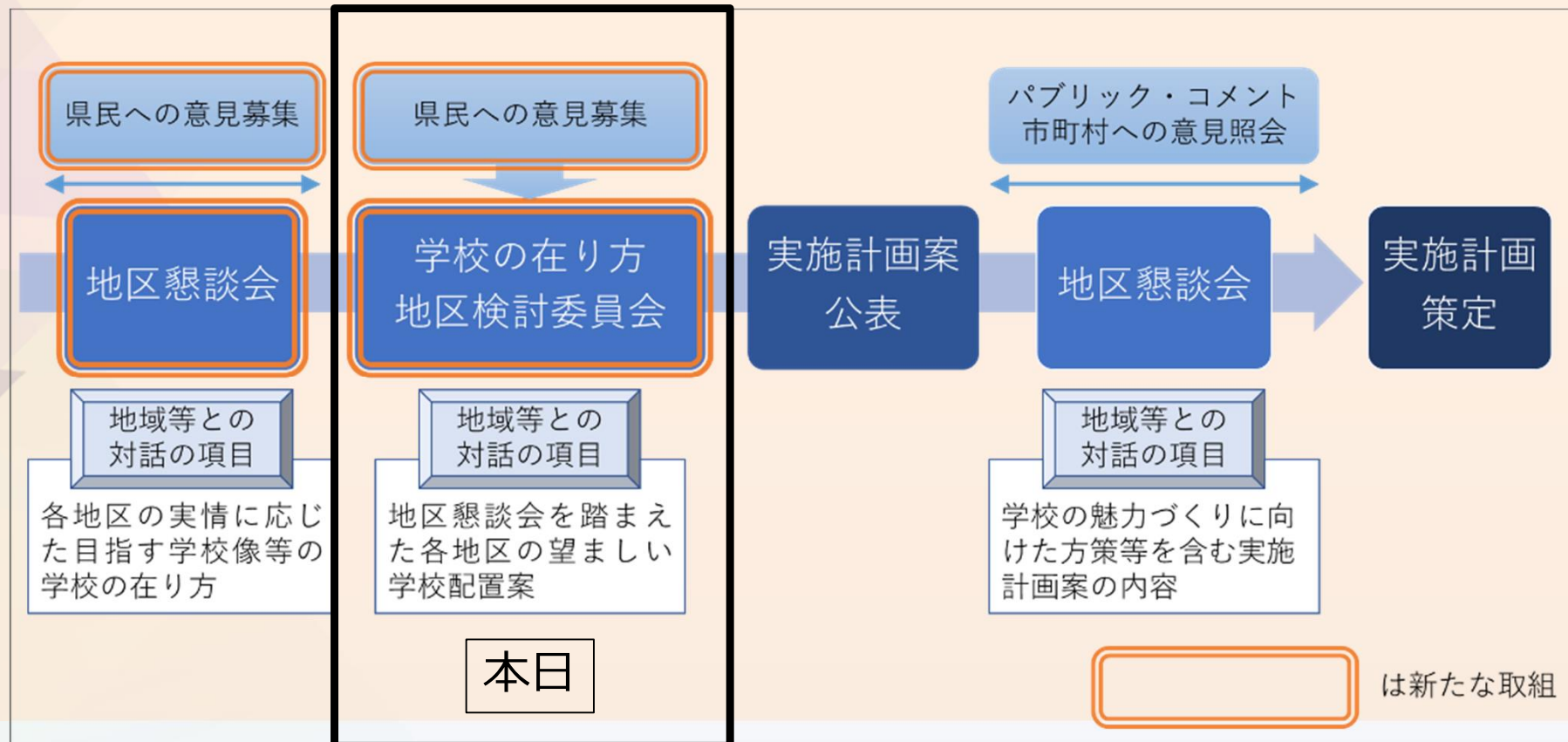
学校の在り方地区検討委員会（西北地区） 【第 1 回】



令和 7 年 1 1 月
青森県教育委員会

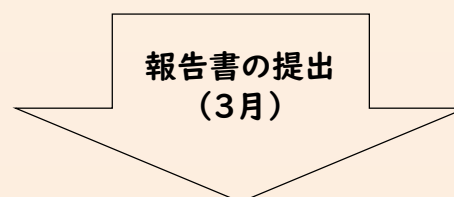
学校の在り方地区検討委員会の目的

青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針を踏まえ、実施計画策定に当たりあらかじめ地域の学校教育関係者等で地区の望ましい学校配置等を検討するため、地区ごとに学校の在り方地区検討委員会を設置



スケジュール（見込み）

学校の在り方地区検討委員会（令和7年度）	
	主な検討内容
第1回（11月）	（1）学校の在り方 （2）学校配置
第2回（1月）	（1）第1回委員会における主な意見の確認 （2）望ましい学校配置
第3回（2月）	（1）第2回委員会における主な意見の確認 （2）報告書（案）の確認



県教育委員会（令和8年度）
○前期実施計画案公表 ○前期実施計画案に対するパブリック・コメント、地区懇談会 ○前期実施計画策定（令和8年10月頃）

本日の流れ

1 事務局説明

- ・ 県立高等学校の配置の現状
- ・ 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み
- ・ 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

2 意見交換

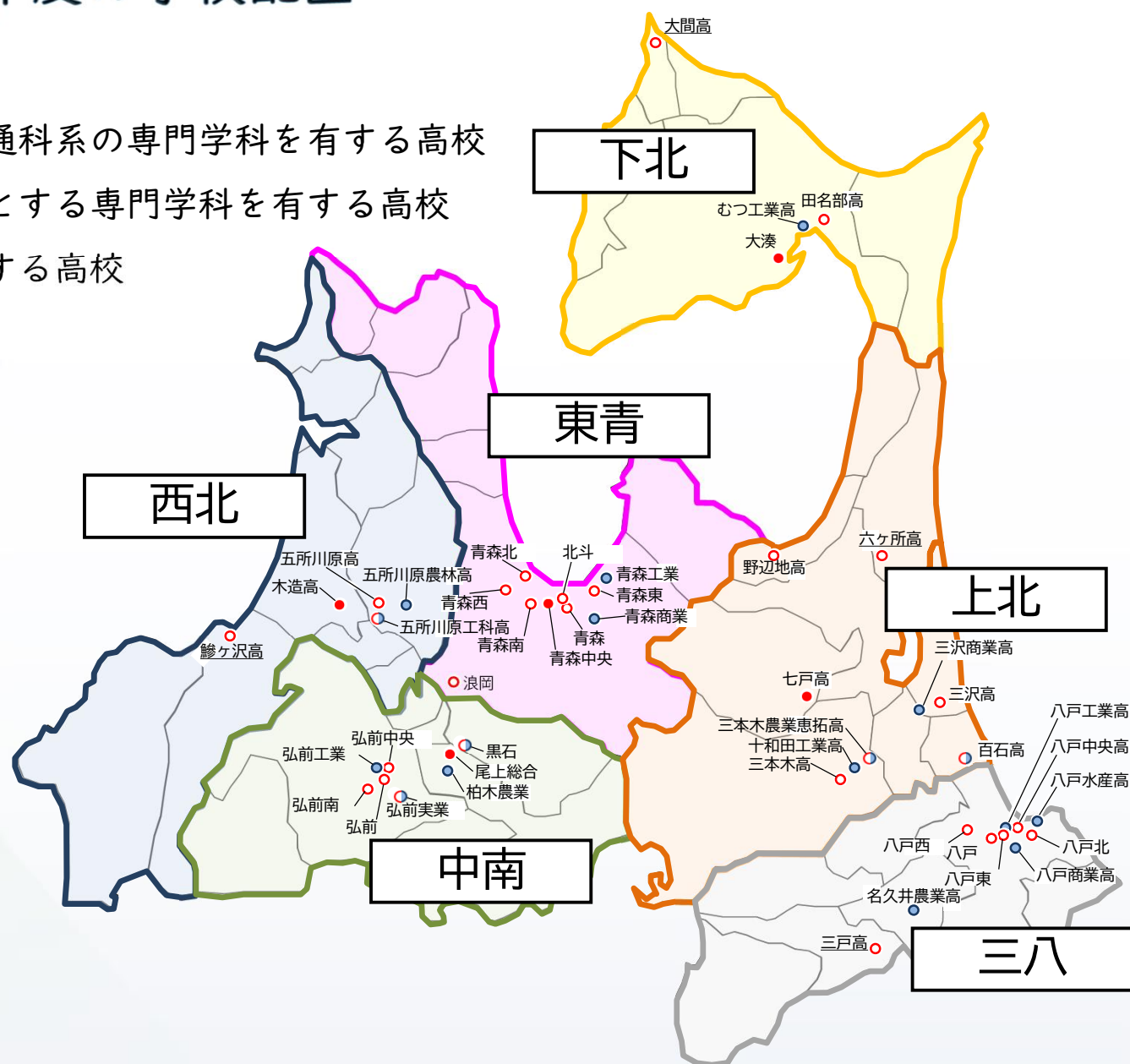
- ・ 学校の在り方について
- ・ 学校配置について

I 事務局説明

①令和7年度の学校配置

- ：普通科及び普通科系の専門学科を有する高校
- ：職業教育を主とする専門学科を有する高校
- ：総合学科を有する高校

学校名：地域校



②令和9年度に生徒募集を行う学校（全日制）

募 集 学級数	東青	西北	中南	上北	下北	三八	計
6学級	青森 統合校 青森東 青森工業		弘前 弘前工業 弘前実業	三本木 三本木農業恵拓		八戸 八戸西 八戸工業	12校
5学級	青森北 青森商業	五所川原 五所川原工科	弘前中央 弘前南 黒石	三沢	田名部 統合校	八戸北 八戸東	12校
4学級	青森南 青森中央			十和田工業			3校
3学級		木造 五所川原農林	柏木農業	七戸 百石 三沢商業		八戸水産 八戸商業	8校
2学級					大間※	名久井農業	2校
1学級		鰺ヶ沢※		野辺地 六ヶ所※		三戸※	4校
学校数	8校	5校	7校	9校	3校	9校	41校
学級数	42学級	17学級	36学級	32学級	12学級	37学級	176学級

※ 地域校として配置されており、入学者数に応じて学級数が変動する可能性がある。

③令和9年度に生徒募集を行う学校（定時制・通信制）

	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗	五所川原	尾上総合	三沢	田名部	八戸中央
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

(2) 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業 予 定 者 数	R9	2,208人	827人	1,933人	1,442人	479人	2,265人	9,154人
	R14 (対R9)	1,894人 (△314)	756人 (△71)	1,816人 (△117)	1,343人 (△99)	392人 (△87)	2,027人 (△238)	8,228人 (△926)
	R19 (対R9)	1,489人 (△719)	552人 (△275)	1,399人 (△534)	1,086人 (△356)	285人 (△194)	1,508人 (△757)	6,319人 (△2,835)
県立高等学校 募集学級数	R9	42c1	17c1	36c1	32c1	12c1	37c1	176c1
	R14 (対R9)	36c1 (△6)	15c1 (△2)	34c1 (△2)	27c1 (△5)	11c1 (△1)	35c1 (△2)	158c1 (△18)
	R19 (対R9)	29c1 (△13)	11c1 (△6)	27c1 (△9)	22c1 (△10)	9c1 (△3)	26c1 (△11)	124c1 (△52)

※ 中学校卒業予定者数は、各年3月の見込み。

※ 地域校及び令和10年度に配置する地域共育校は、学級数が変動する可能性があるため、西北・上北・下北・三八地区においては、募集学級数に変動が生じることがある。

(3) 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

年度等 学校・学科		第2期(R5~R9)		前期(R10~R14)		後期(R15~R19)		備考
		期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	期間内増減	R19学級数	
五所川原高校	普通	0	4					
	理数	0	1					
木造高校	総合	△ 1	3					
鰯ヶ沢高校	普通	0	1					地域共育校(R10~)
五所川原工科高校	普通	0	2					
	工業	0	3					
五所川原農林高校	農業	△ 1	3					
計		△ 2	17	△ 2	15	△ 4	11	

※ 各実施計画開始時において、市町村に1校のみ配置される1学年当たり2学級以下の規模の高等学校を、地域と一体となって学校の活性化に取り組み「地域共育校」として配置する。

なお、地域共育校については、学校や市町村等の関係者で組織する地域協議会を設置し、学校の活性化に向けた方策や学校の在り方等について協議する。

2 意見交換

(1) 学校の在り方について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

キーワードⅠ	こどもまんなか	〈4ページ〉
キーワードⅡ	地域とともにある高等学校	〈4ページ〉
キーワードⅢ	生徒の「行きたい」「学びたい」	〈7ページ〉
キーワードⅣ	本県が目指す人財の育成	〈3ページ〉

②現在の各県立高等学校に求められる役割 (スクールミッション)

※参考資料Ⅰを参照

③西北地区懇談会等における学校の在り方に関する意見

- 大学等への進学を目指す高校が必要である。
- 普通科は進路の選択肢が多様であり生徒のニーズが高い。
- 普通科でもデジタル分野を学べるようにしてほしい。
- 第Ⅰ次産業の人財育成を担う農業科については、定員割れとなっても維持すべき。
- 工業は第Ⅰ次産業ではなく、また、高卒採用より大卒採用の待遇がよいことを考えると、必ずしも高校段階で学ぶ必要はないのではないか。
- 地域の建設業界の現状を踏まえ、土木工学を学べる学科を設置してほしい。
- 総合学科については、学びの内容を生徒がイメージしづらい。
- 生徒数の減少により、部活動の維持が難しくなることが予想されるが、そのような状況であっても文武両道を目指すことができる学校を配置してほしい。
- 進学については五所川原高校、就職は木造高校といった役割分担が考えられる。
- 北斗高校や尾上総合高校との連携による通信制課程の在り方を検討してほしい。

④意見交換に当たっての論点

- 地域にはどのような特色（産業、地理等）があるのか。
- キーワードや地域の特色等を踏まえ、地区においてどのような人財を育成する学校が必要なのか。
- 地域とともにある高等学校として、何を期待するのか。
また、地域としてどのような協力ができるのか。

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程〉

学校配置の観点 （P21）

○高等学校教育を受ける機会の確保

〈中学生の進路志望の選択肢の確保〉

６地区ごとに「大学等への進学や就職等、幅広い進路選択に対応する高校」、「多様な目標を持つ生徒同士の学び合いの機会を提供する高校」、「実践的な職業教育を提供する高校」、「柔軟な学びを提供する高校」等、様々な役割を担う高等学校を配置

〈通学環境への配慮〉

地理的要因から通学困難な地域が新たに生じないように配慮

○充実した教育環境の整備

生徒の進路志望等に応じた特色ある教育活動を更に充実させながら、各校の果たす役割を踏まえた教育環境の整備を進め、高等学校教育の質の確保・向上

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程における学校配置の考え方〉（P22）

- 将来の中学校卒業予定者数の減少、中学生のニーズ、地域の産業、通学環境、国の高等学校教育改革の動向等を考慮しながら様々な役割を担う高等学校を配置
- 生徒の進路志望や興味・関心等の学習ニーズに応じた柔軟で質の高い学びを提供できる教育環境を整備するため、市町村における高等学校の配置状況等を考慮しながら統合等を含む計画的な学校配置について検討

〈定時制課程・通信制課程〉

定時制課程における学校配置の方向性（P23）

- 定時制課程については、６地区ごとの配置を基本

通信制課程における学校配置の方向性（P23）

- 通信制課程については、東青、中南及び三八地区の配置を基本

②令和１０～１４年度までの西北地区の学級数の減

１７学級から１５学級へ（２学級の減）

③西北地区懇談会等における学校配置に関する意見

- 所在市町村の生徒数の減少に合わせて学級減を行うのではなく、地区全体の状況を踏まえた学校配置を考える必要がある。
- 地区の学級数を考えるときには、その地区の私立高校の学科も考慮し、普通科ばかりが多いといったことにならないように配慮してほしい。
- 進学校については入試段階である程度の競争があることが望ましいため、五所川原工科高校の普通科を削減し、普通科を五所川原高校に一本化することも考えられる。
- 五所川原工科高校の工業科については、定員割れの状況が続いているため、学級減を行ってもよいのではないか。
- 普通科のニーズが高いことを踏まえると、木造高校の総合学科を普通科に改編することも考えられる。

③西北地区懇談会等における学校配置に関する意見

- 鯉ヶ沢高校については、地理的な要因や大規模校になじめない生徒の居場所になっていることを考えると、存続させるべきである。
- 五所川原農林高校と五所川原工科高校を統合すれば魅力ある高校になるのではないか。生徒数が多いうちに統合することで学校の活性化につながるため、可能であれば前期実施計画のうちに統合すればよい。
- 中学校卒業予定者数が大幅に減少する中で学校数を維持していくと、小規模化が進み、それに伴い教員数も減少することから、これまでの学校の枠組みにとらわれることなく、新たな学校の形を模索していく必要がある。例えば、校舎制を導入し、農業系は五所川原農林高校、工業系は五所川原工科高校、商業系は木造高校の校舎に分かれるなどの対応も考えられる。
- こどもが減っているため統廃合は仕方ないが、一極集中しすぎている。せめて小規模の進学校を県内に満遍なく設置することはできないか。

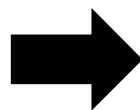
④これまでの統合の事例Ⅰ

〈黒石高校〉

普通科(3cl)
看護科(1cl)

2学科4学級

統合・新設



〈黒石高校〉

普通科(3cl)
情報デザイン科(1cl)
看護科(1cl)

3学科5学級

〈黒石商業高校〉

商業科(2cl)
情報処理科(1cl)
情報デザイン科(1cl)

3学科4学級



【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 生徒のキャリア教育の充実

④これまでの統合の事例2

〈金木高校〉

普通科(1cl)

1学科1学級

〈板柳高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈鶴田高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈五所川原工業高校〉

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

情報技術科(1cl)

4学科4学級

統合・新設

〈五所川原工科高校〉

普通科(2cl)

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

4学科5学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 工業科の生徒の普通教科の学習の充実

④これまでの統合の事例3

〈十和田西高校〉

普通科(1cl)
観光科(1cl)

2学科2学級

〈六戸高校〉

普通科(2cl)

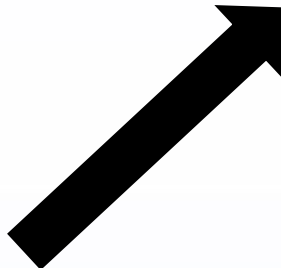
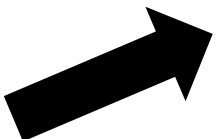
1学科2学級

〈三本木農業高校〉

植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
農業機械科(1cl)
環境土木科(1cl)
農業経済科(1cl)

5学科5学級

統合・新設



〈三本木農業恵拓高校〉

普通科(2cl)
植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
環境工学科(1cl)
食品科学科(1cl)

5学科6学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 農業科の生徒の普通教科の学習の充実

⑤意見交換に当たっての論点

【全日制課程】

- 基本方針、地区の学校の在り方、中学生のニーズ等を踏まえ、令和１４年度における県立高等学校募集学級数の見込みを前提に、各校の学級減や統合等を含め、どのような学校規模・配置が望ましいか。

【定時制】

- 生徒のニーズの多様化へ対応し、広く学習機会を提供するため、定時制課程の配置等を維持すべきか。

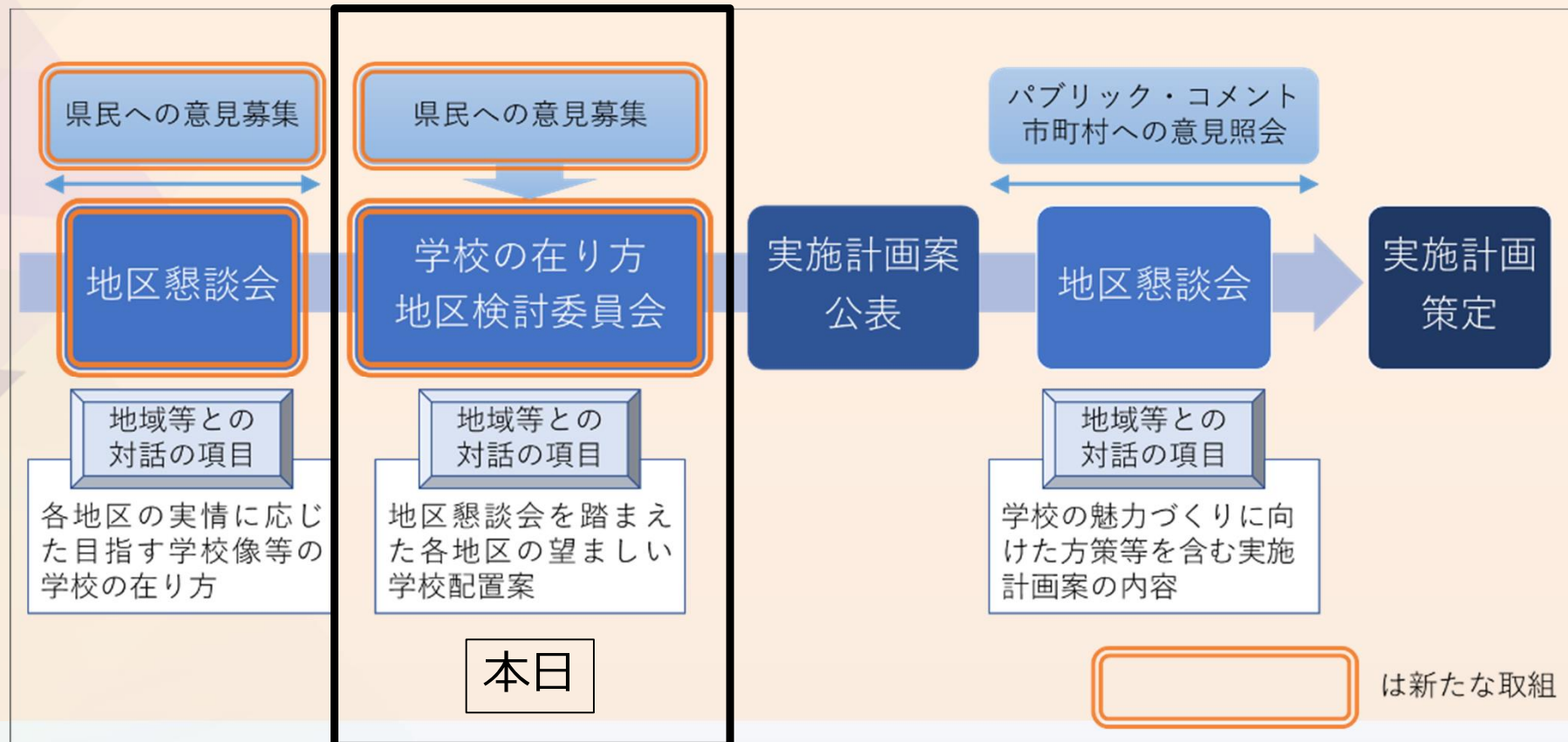
学校の在り方地区検討委員会（中南地区） 【第 1 回】



令和 7 年 1 1 月
青森県教育委員会

学校の在り方地区検討委員会の目的

青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針を踏まえ、実施計画策定に当たりあらかじめ地域の学校教育関係者等で地区の望ましい学校配置等を検討するため、地区ごとに学校の在り方地区検討委員会を設置



スケジュール（見込み）

学校の在り方地区検討委員会（令和7年度）	
	主な検討内容
第1回（11月）	(1) 学校の在り方 (2) 学校配置
第2回（1月）	(1) 第1回委員会における主な意見の確認 (2) 望ましい学校配置
第3回（2月）	(1) 第2回委員会における主な意見の確認 (2) 報告書（案）の確認

報告書の提出
（3月）

県教育委員会（令和8年度）
○前期実施計画案公表 ○前期実施計画案に対するパブリック・コメント、地区懇談会 ○前期実施計画策定（令和8年10月頃）

本日の流れ

1 事務局説明

- ・ 県立高等学校の配置の現状
- ・ 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み
- ・ 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

2 意見交換

- ・ 学校の在り方について
- ・ 学校配置について

I 事務局説明

(1) 県立高等学校の配置の現状

①令和7年度の学校配置

- ：普通科及び普通科系の専門学科を有する高校
- ：職業教育を主とする専門学科を有する高校
- ：総合学科を有する高校

学校名：地域校



②令和9年度に生徒募集を行う学校（全日制）

募 集 学級数	東青	西北	中南	上北	下北	三八	計
6学級	青森 統合校 青森東 青森工業		弘前 弘前工業 弘前実業	三本木 三本木農業恵拓		八戸 八戸西 八戸工業	12校
5学級	青森北 青森商業	五所川原 五所川原工科	弘前中央 弘前南 黒石	三沢	田名部 統合校	八戸北 八戸東	12校
4学級	青森南 青森中央			十和田工業			3校
3学級		木造 五所川原農林	柏木農業	七戸 百石 三沢商業		八戸水産 八戸商業	8校
2学級					大間※	名久井農業	2校
1学級		鰺ヶ沢※		野辺地 六ヶ所※		三戸※	4校
学校数	8校	5校	7校	9校	3校	9校	41校
学級数	42学級	17学級	36学級	32学級	12学級	37学級	176学級

※ 地域校として配置されており、入学者数に応じて学級数が変動する可能性がある。

③令和9年度に生徒募集を行う学校（定時制・通信制）

	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗	五所川原	尾上総合	三沢	田名部	八戸中央
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

(2) 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業 予 定 者 数	R9	2,208人	827人	1,933人	1,442人	479人	2,265人	9,154人
	R14 (対R9)	1,894人 (△314)	756人 (△71)	1,816人 (△117)	1,343人 (△99)	392人 (△87)	2,027人 (△238)	8,228人 (△926)
	R19 (対R9)	1,489人 (△719)	552人 (△275)	1,399人 (△534)	1,086人 (△356)	285人 (△194)	1,508人 (△757)	6,319人 (△2,835)
県立高等学校 募集学級数	R9	42c1	17c1	36c1	32c1	12c1	37c1	176c1
	R14 (対R9)	36c1 (△6)	15c1 (△2)	34c1 (△2)	27c1 (△5)	11c1 (△1)	35c1 (△2)	158c1 (△18)
	R19 (対R9)	29c1 (△13)	11c1 (△6)	27c1 (△9)	22c1 (△10)	9c1 (△3)	26c1 (△11)	124c1 (△52)

※ 中学校卒業予定者数は、各年3月の見込み。

※ 地域校及び令和10年度に配置する地域共育校は、学級数が変動する可能性があるため、西北・上北・下北・三八地区においては、募集学級数に変動が生じることがある。

(3) 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

年度等 学校・学科		第2期		前期		後期		備考
		期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	期間内増減	R19学級数	
弘前高校	普通	0	6					
弘前中央高校	普通	△ 1	5					
弘前南高校	普通	△ 1	5					
黒石高校	普通	0	3					
	商業	0	1					
	看護	0	1					
柏木農業高校	農業	△ 1	3					
弘前工業高校	工業	0	6					
弘前実業高校	商業	0	3					
	家庭	0	2					
	スポーツ科学	0	1					
計		△ 3	36	△ 2	34	△ 7	27	

2 意見交換

(1) 学校の在り方について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

キーワードⅠ	こどもまんなか	〈4ページ〉
キーワードⅡ	地域とともにある高等学校	〈4ページ〉
キーワードⅢ	生徒の「行きたい」「学びたい」	〈7ページ〉
キーワードⅣ	本県が目指す人財の育成	〈3ページ〉

②現在の各県立高等学校に求められる役割 (スクールミッション)

※参考資料Ⅰを参照

③意見交換に当たっての論点

- 地域にはどのような特色（産業、地理等）があるのか。
- キーワードや地域の特色等を踏まえ、地区においてどのような人財を育成する学校が必要なのか。
- 地域とともにある高等学校として、何を期待するのか。
また、地域としてどのような協力ができるのか。

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程〉

学校配置の観点 （P21）

○高等学校教育を受ける機会の確保

〈中学生の進路志望の選択肢の確保〉

６地区ごとに「大学等への進学や就職等、幅広い進路選択に対応する高校」、「多様な目標を持つ生徒同士の学び合いの機会を提供する高校」、「実践的な職業教育を提供する高校」、「柔軟な学びを提供する高校」等、様々な役割を担う高等学校を配置

〈通学環境への配慮〉

地理的要因から通学困難な地域が新たに生じないように配慮

○充実した教育環境の整備

生徒の進路志望等に応じた特色ある教育活動を更に充実させながら、各校の果たす役割を踏まえた教育環境の整備を進め、高等学校教育の質の確保・向上

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程における学校配置の考え方〉（P22）

- 将来の中学校卒業予定者数の減少、中学生のニーズ、地域の産業、通学環境、国の高等学校教育改革の動向等を考慮しながら様々な役割を担う高等学校を配置
- 生徒の進路志望や興味・関心等の学習ニーズに応じた柔軟で質の高い学びを提供できる教育環境を整備するため、市町村における高等学校の配置状況等を考慮しながら統合等を含む計画的な学校配置について検討

〈定時制課程・通信制課程〉

定時制課程における学校配置の方向性（P23）

- 定時制課程については、６地区ごとの配置を基本

通信制課程における学校配置の方向性（P23）

- 通信制課程については、東青、中南及び三八地区の配置を基本

②令和１０～１４年度までの中南地区の学級数の減

３６学級から３４学級へ（２学級の減）

③中南地区懇談会等における学校配置に関する意見

- 地域の公共交通機関の状況は更なる変化が予想され、将来を見通すことが難しい状況ではあるが、高校に通学することが困難な地域が新たに生じることのないよう十分に配慮し、地理的状況にかかわらず高校における学習機会を確保するように努めてほしい。
- こどもが減っているため統廃合は仕方ないが、一極集中しすぎている。せめて小規模の進学校を県内に満遍なく設置することはできないか。

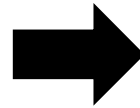
④これまでの統合の事例Ⅰ

〈黒石高校〉

普通科(3cl)
看護科(1cl)

2学科4学級

統合・新設



〈黒石高校〉

普通科(3cl)
情報デザイン科(1cl)
看護科(1cl)

3学科5学級

〈黒石商業高校〉

商業科(2cl)
情報処理科(1cl)
情報デザイン科(1cl)

3学科4学級



【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 生徒のキャリア教育の充実

④これまでの統合の事例2

〈金木高校〉

普通科(1cl)

1学科1学級

〈板柳高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈鶴田高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈五所川原工業高校〉

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

情報技術科(1cl)

4学科4学級

統合・新設

〈五所川原工科高校〉

普通科(2cl)

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

4学科5学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 工業科の生徒の普通教科の学習の充実

④これまでの統合の事例3

〈十和田西高校〉

普通科(1cl)
観光科(1cl)

2学科2学級

〈六戸高校〉

普通科(2cl)

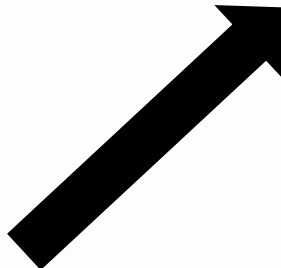
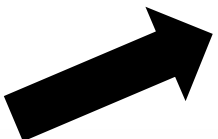
1学科2学級

〈三本木農業高校〉

植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
農業機械科(1cl)
環境土木科(1cl)
農業経済科(1cl)

5学科5学級

統合・新設



〈三本木農業恵拓高校〉

普通科(2cl)
植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
環境工学科(1cl)
食品科学科(1cl)

5学科6学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 農業科の生徒の普通教科の学習の充実

⑤意見交換に当たっての論点

【全日制課程】

- 基本方針、地区の学校の在り方、中学生のニーズ等を踏まえ、令和１４年度における県立高等学校募集学級数の見込みを前提に、各校の学級減や統合等を含め、どのような学校規模・配置が望ましいか。

【定時制・通信制課程】

- 生徒のニーズの多様化へ対応し、広く学習機会を提供するため、定時制課程・通信制課程の配置等を維持すべきか。

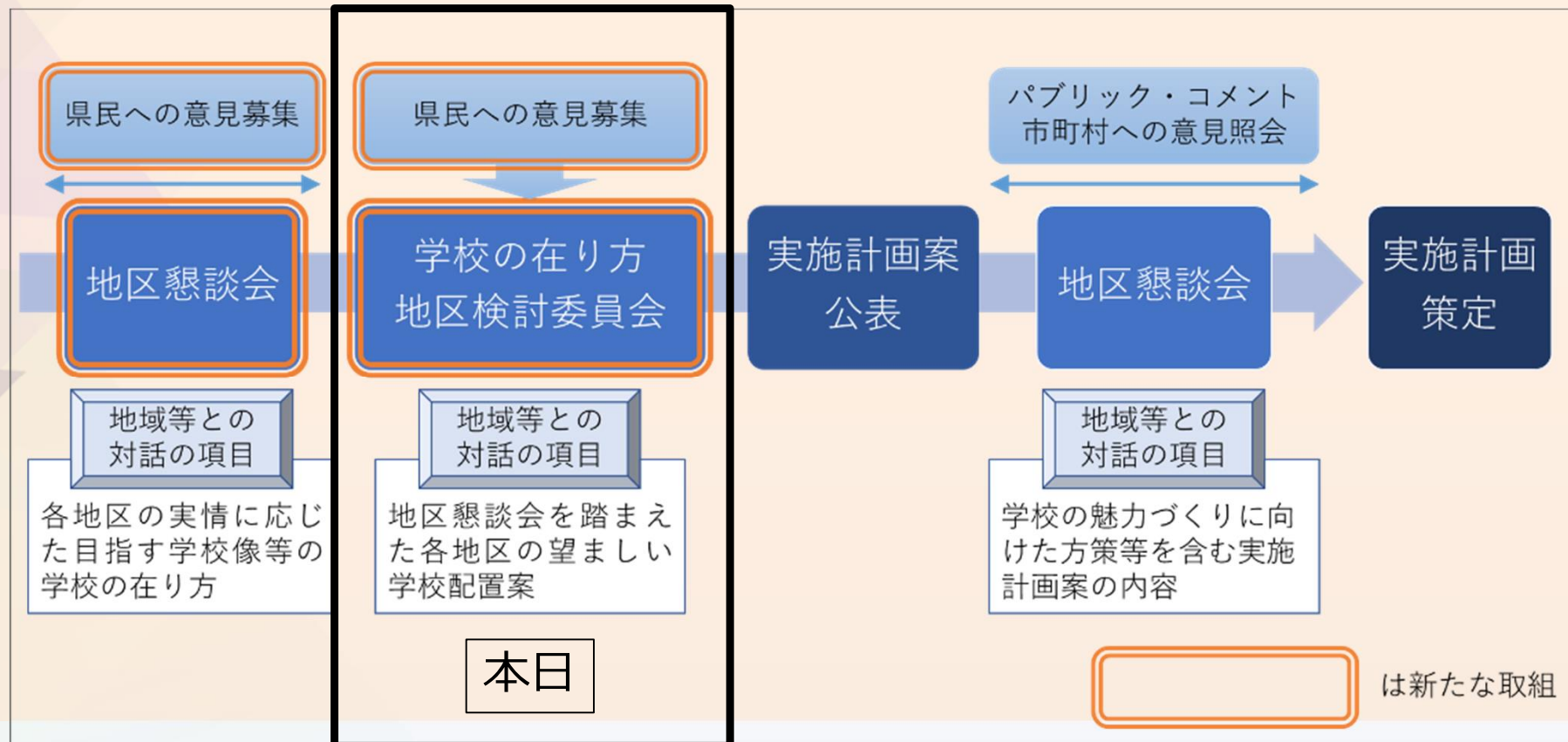
学校の在り方地区検討委員会（上北地区） 【第 1 回】



令和 7 年 1 1 月
青森県教育委員会

学校の在り方地区検討委員会の目的

青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針を踏まえ、実施計画策定に当たりあらかじめ地域の学校教育関係者等で地区の望ましい学校配置等を検討するため、地区ごとに学校の在り方地区検討委員会を設置



スケジュール（見込み）

学校の在り方地区検討委員会（令和7年度）	
	主な検討内容
第1回（11月）	(1) 学校の在り方 (2) 学校配置
第2回（1月）	(1) 第1回委員会における主な意見の確認 (2) 望ましい学校配置
第3回（2月）	(1) 第2回委員会における主な意見の確認 (2) 報告書（案）の確認

報告書の提出
（3月）

県教育委員会（令和8年度）
○前期実施計画案公表 ○前期実施計画案に対するパブリック・コメント、地区懇談会 ○前期実施計画策定（令和8年10月頃）

本日の流れ

1 事務局説明

- ・ 県立高等学校の配置の現状
- ・ 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み
- ・ 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

2 意見交換

- ・ 学校の在り方について
- ・ 学校配置について

I 事務局説明

①令和7年度の学校配置

- ：普通科及び普通科系の専門学科を有する高校
- ：職業教育を主とする専門学科を有する高校
- ：総合学科を有する高校

学校名：地域校



②令和9年度に生徒募集を行う学校（全日制）

募 集 学級数	東青	西北	中南	上北	下北	三八	計
6学級	青森 統合校 青森東 青森工業		弘前 弘前工業 弘前実業	三本木 三本木農業恵拓		八戸 八戸西 八戸工業	12校
5学級	青森北 青森商業	五所川原 五所川原工科	弘前中央 弘前南 黒石	三沢	田名部 統合校	八戸北 八戸東	12校
4学級	青森南 青森中央			十和田工業			3校
3学級		木造 五所川原農林	柏木農業	七戸 百石 三沢商業		八戸水産 八戸商業	8校
2学級					大間※	名久井農業	2校
1学級		鰺ヶ沢※		野辺地 六ヶ所※		三戸※	4校
学校数	8校	5校	7校	9校	3校	9校	41校
学級数	42学級	17学級	36学級	32学級	12学級	37学級	176学級

※ 地域校として配置されており、入学者数に応じて学級数が変動する可能性がある。

③令和9年度に生徒募集を行う学校（定時制・通信制）

	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗	五所川原	尾上総合	三沢	田名部	八戸中央
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

(2) 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業 予 定 者 数	R9	2,208人	827人	1,933人	1,442人	479人	2,265人	9,154人
	R14 (対R9)	1,894人 (△314)	756人 (△71)	1,816人 (△117)	1,343人 (△99)	392人 (△87)	2,027人 (△238)	8,228人 (△926)
	R19 (対R9)	1,489人 (△719)	552人 (△275)	1,399人 (△534)	1,086人 (△356)	285人 (△194)	1,508人 (△757)	6,319人 (△2,835)
県立高等学校 募集学級数	R9	42c1	17c1	36c1	32c1	12c1	37c1	176c1
	R14 (対R9)	36c1 (△6)	15c1 (△2)	34c1 (△2)	27c1 (△5)	11c1 (△1)	35c1 (△2)	158c1 (△18)
	R19 (対R9)	29c1 (△13)	11c1 (△6)	27c1 (△9)	22c1 (△10)	9c1 (△3)	26c1 (△11)	124c1 (△52)

※ 中学校卒業予定者数は、各年3月の見込み。

※ 地域校及び令和10年度に配置する地域共育校は、学級数が変動する可能性があるため、西北・上北・下北・三八地区においては、募集学級数に変動が生じることがある。

(3) 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

年度等 学校・学科		第2期 (R5～R9)		前期 (R10～R14)		後期 (R15～R19)		備考
		期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	期間内増減	R19学級数	
三本木高校	普通	0	6					
三沢高校	普通	△ 1	5					
野辺地高校	普通	△ 1	1					地域共育校 (R10～)
七戸高校	総合	0	3					
百石高校	普通	0	2					
	家庭科	0	1					
六ヶ所高校	普通	0	1					地域共育校 (R10～)
三本木農業恵拓高校	普通	0	2					
	農業	0	4					
十和田工業高校	工業	0	4					
三沢商業高校	商業	0	3					
計		△ 2	32	△ 5	27	△ 5	22	

※ 各実施計画開始時において、市町村に1校のみ配置される1学年当たり2学級以下の規模の高等学校を、地域と一体となって学校の活性化に取り組み「地域共育校」として配置する。

なお、地域共育校については、学校や市町村等の関係者で組織する地域協議会を設置し、学校の活性化に向けた方策や学校の在り方等について協議する。

2 意見交換

(1) 学校の在り方について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

キーワードⅠ こどもまんなか <4ページ>

キーワードⅡ 地域とともにある高等学校 <4ページ>

キーワードⅢ 生徒の「行きたい」「学びたい」 <7ページ>

キーワードⅣ 本県が目指す人財の育成 <3ページ>

②現在の各県立高等学校に求められる役割 (スクールミッション)

※参考資料Ⅰを参照

③上北地区懇談会等における学校の在り方に関する意見

- 本県の人口減少を踏まえると地元に着定する人財育成が必要である。産業界と意見交換しながら職業学科の配置を十分に検討してほしい。
- 地域の実情を考慮し、地域愛を醸成する学校が必要である。
- 上北地区は農・工・商の職業学科が揃っており、様々な業種に携わる人財を育成できる地域であることから、現状の職業学科は維持してほしい。
- 不登校生徒が増加している中、私立の通信制高校ではオンライン通学という形でスクーリングは年1回である。県立の通信制高校においてもそのような環境を整備する必要がある。
- 特別な事情を抱えた生徒や不登校生徒が増加している中、定時制高校や通信制高校がそのような生徒の受け皿になっている。定時制高校は各地区に配置されているが、それでも通学に負担を感じる生徒もいることから、全日制高校の通級を拡充する必要がある。

④意見交換に当たっての論点

- 地域にはどのような特色（産業、地理等）があるのか。
- キーワードや地域の特色等を踏まえ、地区においてどのような人財を育成する学校が必要なのか。
- 地域とともにある高等学校として、何を期待するのか。
また、地域としてどのような協力ができるのか。

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程〉

学校配置の観点 （P21）

○高等学校教育を受ける機会の確保

〈中学生の進路志望の選択肢の確保〉

６地区ごとに「大学等への進学や就職等、幅広い進路選択に対応する高校」、「多様な目標を持つ生徒同士の学び合いの機会を提供する高校」、「実践的な職業教育を提供する高校」、「柔軟な学びを提供する高校」等、様々な役割を担う高等学校を配置

〈通学環境への配慮〉

地理的要因から通学困難な地域が新たに生じないように配慮

○充実した教育環境の整備

生徒の進路志望等に応じた特色ある教育活動を更に充実させながら、各校の果たす役割を踏まえた教育環境の整備を進め、高等学校教育の質の確保・向上

(2) 学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程における学校配置の考え方〉（P22）

- 将来の中学校卒業予定者数の減少、中学生のニーズ、地域の産業、通学環境、国の高等学校教育改革の動向等を考慮しながら様々な役割を担う高等学校を配置
- 生徒の進路志望や興味・関心等の学習ニーズに応じた柔軟で質の高い学びを提供できる教育環境を整備するため、市町村における高等学校の配置状況等を考慮しながら統合等を含む計画的な学校配置について検討

〈定時制課程・通信制課程〉

定時制課程における学校配置の方向性 （P23）

- 定時制課程については、6地区ごとの配置を基本

通信制課程における学校配置の方向性 （P23）

- 通信制課程については、東青、中南及び三八地区の配置を基本

②令和１０～１４年度までの上北地区の学級数の減

３２学級から２７学級へ（５学級の減）

③上北地区懇談会等における学校配置に関する意見

- 第１期実施計画において、十和田西高校、六戸高校、三本木農業高校を統合したことから、今後は、満遍なく学級減し、現在の配置を維持した方がよい。
- 一定の学力を保つためにも、普通科においては定員割れが起きない募集学級数とした方がよい。
- 特別な事情を抱えた生徒等の受入先として通信制高校を各地区に置くことで、全日制高校において、各校のスクール・ミッション達成に向けた教育活動に注力することができると考える。
- こどもが減っているため統廃合は仕方ないが、一極集中しすぎている。せめて小規模の進学校を県内に満遍なく設置することはできないか。

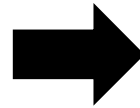
④これまでの統合の事例 I

〈黒石高校〉

普通科 (3cl)
看護科 (1cl)

2学科4学級

統合・新設



〈黒石高校〉

普通科 (3cl)
情報デザイン科 (1cl)
看護科 (1cl)

3学科5学級

〈黒石商業高校〉

商業科 (2cl)
情報処理科 (1cl)
情報デザイン科 (1cl)

3学科4学級



【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 生徒のキャリア教育の充実

④これまでの統合の事例2

〈金木高校〉

普通科(1cl)

1学科1学級

〈板柳高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈鶴田高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈五所川原工業高校〉

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

情報技術科(1cl)

4学科4学級

統合・新設

〈五所川原工科高校〉

普通科(2cl)

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

4学科5学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 工業科の生徒の普通教科の学習の充実

④これまでの統合の事例3

〈十和田西高校〉

普通科(1cl)
観光科(1cl)

2学科2学級

〈六戸高校〉

普通科(2cl)

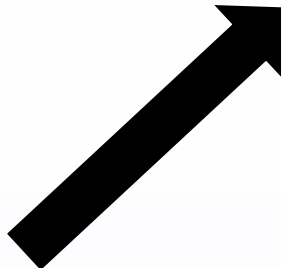
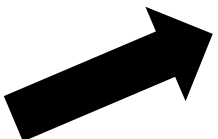
1学科2学級

〈三本木農業高校〉

植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
農業機械科(1cl)
環境土木科(1cl)
農業経済科(1cl)

5学科5学級

統合・新設



〈三本木農業恵拓高校〉

普通科(2cl)
植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
環境工学科(1cl)
食品科学科(1cl)

5学科6学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 農業科の生徒の普通教科の学習の充実

⑤意見交換に当たっての論点

【全日制課程】

- 基本方針、地区の学校の在り方、中学生のニーズ等を踏まえ、令和14年度における県立高等学校募集学級数の見込みを前提に、各校の学級減や統合等を含め、どのような学校規模・配置が望ましいか。

【定時制課程】

- 生徒のニーズの多様化へ対応し、広く学習機会を提供するため、定時制課程の配置等を維持すべきか。

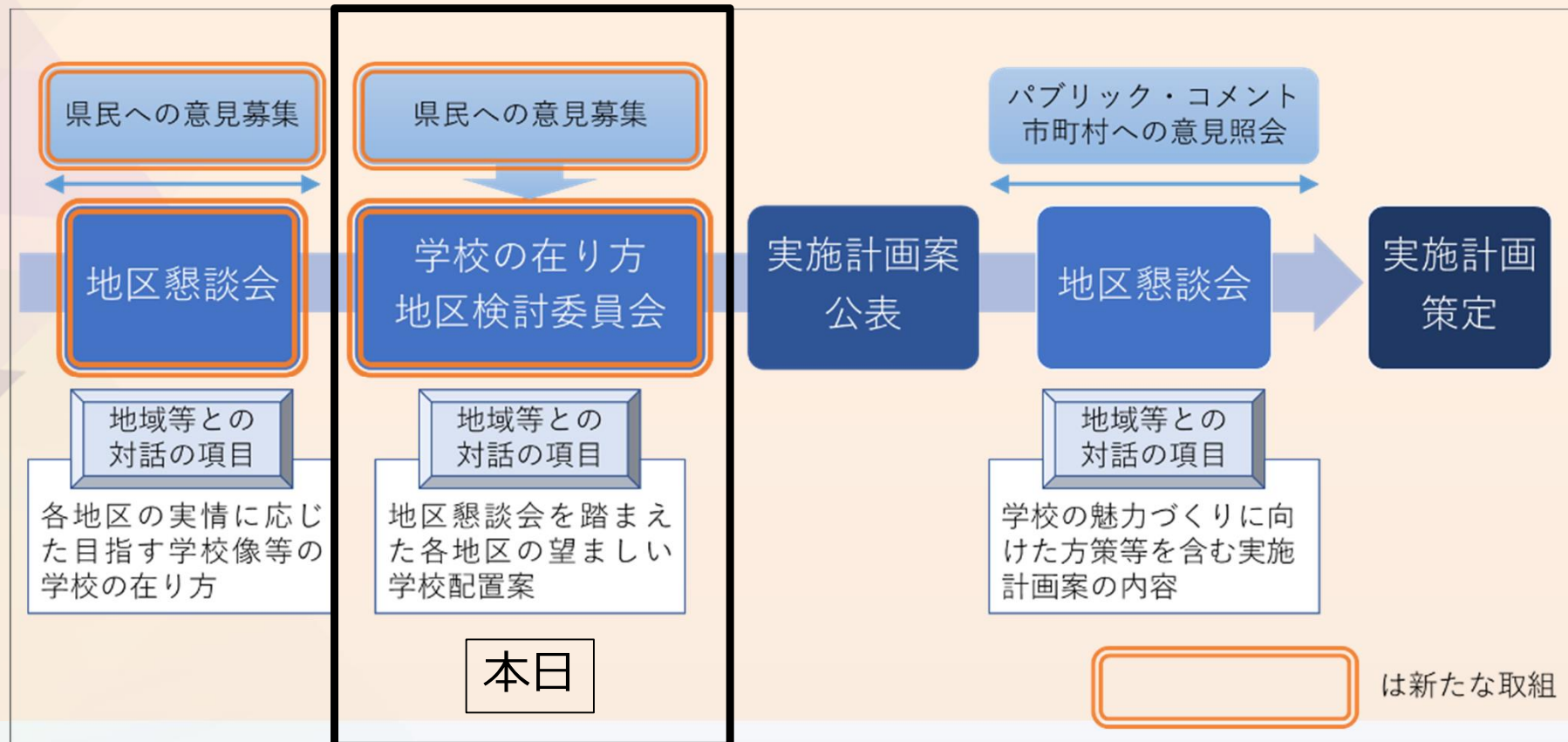
学校の在り方地区検討委員会（下北地区） 【第 1 回】



令和 7 年 1 1 月
青森県教育委員会

学校の在り方地区検討委員会の目的

青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針を踏まえ、実施計画策定に当たりあらかじめ地域の学校教育関係者等で地区の望ましい学校配置等を検討するため、地区ごとに学校の在り方地区検討委員会を設置



スケジュール（見込み）

学校の在り方地区検討委員会（令和7年度）	
	主な検討内容
第1回（11月）	(1) 学校の在り方 (2) 学校配置
第2回（1月）	(1) 第1回委員会における主な意見の確認 (2) 望ましい学校配置
第3回（2月）	(1) 第2回委員会における主な意見の確認 (2) 報告書（案）の確認

報告書の提出
（3月）

県教育委員会（令和8年度）
○前期実施計画案公表 ○前期実施計画案に対するパブリック・コメント、地区懇談会 ○前期実施計画策定（令和8年10月頃）

本日の流れ

1 事務局説明

- ・ 県立高等学校の配置の現状
- ・ 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み
- ・ 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

2 意見交換

- ・ 学校の在り方について
- ・ 学校配置について

I 事務局説明

①令和7年度の学校配置

- ：普通科及び普通科系の専門学科を有する高校
- ：職業教育を主とする専門学科を有する高校
- ：総合学科を有する高校

学校名：地域校



②令和9年度に生徒募集を行う学校（全日制）

募 集 学級数	東青	西北	中南	上北	下北	三八	計
6学級	青森 統合校 青森東 青森工業		弘前 弘前工業 弘前実業	三本木 三本木農業恵拓		八戸 八戸西 八戸工業	12校
5学級	青森北 青森商業	五所川原 五所川原工科	弘前中央 弘前南 黒石	三沢	田名部 統合校	八戸北 八戸東	12校
4学級	青森南 青森中央			十和田工業			3校
3学級		木造 五所川原農林	柏木農業	七戸 百石 三沢商業		八戸水産 八戸商業	8校
2学級					大間※	名久井農業	2校
1学級		鰺ヶ沢※		野辺地 六ヶ所※		三戸※	4校
学校数	8校	5校	7校	9校	3校	9校	41校
学級数	42学級	17学級	36学級	32学級	12学級	37学級	176学級

※ 地域校として配置されており、入学者数に応じて学級数が変動する可能性がある。

③令和9年度に生徒募集を行う学校（定時制・通信制）

	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗	五所川原	尾上総合	三沢	田名部	八戸中央
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

(2) 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業 予 定 者 数	R9	2,208人	827人	1,933人	1,442人	479人	2,265人	9,154人
	R14 (対R9)	1,894人 (△314)	756人 (△71)	1,816人 (△117)	1,343人 (△99)	392人 (△87)	2,027人 (△238)	8,228人 (△926)
	R19 (対R9)	1,489人 (△719)	552人 (△275)	1,399人 (△534)	1,086人 (△356)	285人 (△194)	1,508人 (△757)	6,319人 (△2,835)
県立高等学校 募集学級数	R9	42c1	17c1	36c1	32c1	12c1	37c1	176c1
	R14 (対R9)	36c1 (△6)	15c1 (△2)	34c1 (△2)	27c1 (△5)	11c1 (△1)	35c1 (△2)	158c1 (△18)
	R19 (対R9)	29c1 (△13)	11c1 (△6)	27c1 (△9)	22c1 (△10)	9c1 (△3)	26c1 (△11)	124c1 (△52)

※ 中学校卒業予定者数は、各年3月の見込み。

※ 地域校及び令和10年度に配置する地域共育校は、学級数が変動する可能性があるため、西北・上北・下北・三八地区においては、募集学級数に変動が生じることがある。

(3) 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

学校・学科		第2期 (R5～R9)		前期 (R10～R14)		後期 (R15～R19)		備考
		期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	期間内増減	R19学級数	
田名部高校	普通	0	5					
下北地区統合校	総合	3	3					R9募集開始
	工業	2	2					
	大湊高校	△ 4	0	—	—	—	—	R9募集停止 R10年度末閉校
	むつ工業高校	△ 3	0	—	—	—	—	
大間高校	普通	0	2					地域共育校 (R10～)
計		△ 2	12	△ 1	11	△ 2	9	

※ 各実施計画開始時において、市町村に1校のみ配置される1学年当たり2学級以下の規模の高等学校を、地域と一体となって学校の活性化に取り組み「地域共育校」として配置する。

なお、地域共育校については、学校や市町村等の関係者で組織する地域協議会を設置し、学校の活性化に向けた方策や学校の在り方等について協議する。

2 意見交換

(1) 学校の在り方について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

キーワードⅠ こどもまんなか <4ページ>

キーワードⅡ 地域とともにある高等学校 <4ページ>

キーワードⅢ 生徒の「行きたい」「学びたい」 <7ページ>

キーワードⅣ 本県が目指す人財の育成 <3ページ>

②現在の各県立高等学校に求められる役割 (スクールミッション)

※参考資料Ⅰを参照

③下北地区懇談会等における学校の在り方に関する意見

- 地理的に不利な地域であるため、遠隔授業などのテクノロジーを活用した学校づくりに期待している。
- 将来、地域に貢献できる人財を育成する高校が必要である。進路の選択肢を広げるため、特進コースのようなものがあれば良いのではないか。一方、学力だけでなく生きる力を育むことに力を入れた高校の配置も望まれる。
- 夢や志を実現するために選抜性の高い大学等への進学を希望する生徒に対し、高いレベルの学力を身に付けさせる必要があることから、高度な学びを行う学科を有する学校を配置してほしい。
- 農業科を設置してほしい。（今年、国が米の増産へ農業政策を転換したが、米の増産に寄与できるよう下北にも米農家が必要である。稲作や農業経営、気候変動に対応できる農業を学べると良いと思う。）
- 発達障害など神経発達症のこどもが増えているので、高校入学後もサポートが途切れないよう、通級指導教室の設置をお願いしたい。

④意見交換に当たっての論点

- 地域にはどのような特色（産業、地理等）があるのか。
- キーワードや地域の特色等を踏まえ、地区においてどのような人財を育成する学校が必要なのか。
- 地域とともにある高等学校として、何を期待するのか。
また、地域としてどのような協力ができるのか。

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程〉

学校配置の観点 （P21）

○高等学校教育を受ける機会の確保

〈中学生の進路志望の選択肢の確保〉

６地区ごとに「大学等への進学や就職等、幅広い進路選択に対応する高校」、「多様な目標を持つ生徒同士の学び合いの機会を提供する高校」、「実践的な職業教育を提供する高校」、「柔軟な学びを提供する高校」等、様々な役割を担う高等学校を配置

〈通学環境への配慮〉

地理的要因から通学困難な地域が新たに生じないように配慮

○充実した教育環境の整備

生徒の進路志望等に応じた特色ある教育活動を更に充実させながら、各校の果たす役割を踏まえた教育環境の整備を進め、高等学校教育の質の確保・向上

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程における学校配置の考え方〉（P22）

- 将来の中学校卒業予定者数の減少、中学生のニーズ、地域の産業、通学環境、国の高等学校教育改革の動向等を考慮しながら様々な役割を担う高等学校を配置
- 生徒の進路志望や興味・関心等の学習ニーズに応じた柔軟で質の高い学びを提供できる教育環境を整備するため、市町村における高等学校の配置状況等を考慮しながら統合等を含む計画的な学校配置について検討

〈定時制課程・通信制課程〉

定時制課程における学校配置の方向性（P23）

- 定時制課程については、６地区ごとの配置を基本

通信制課程における学校配置の方向性（P23）

- 通信制課程については、東青、中南及び三八地区の配置を基本

②令和１０～１４年度までの下北地区の学級数の減

１２学級から１１学級へ（１学級の減）

③下北地区懇談会等における学校配置に関する意見

- こどもが減っているため統廃合は仕方ないが、一極集中しすぎている。せめて小規模の進学校を県内に満遍なく設置することはできないか。
- 夜間定時制への通学が困難なので、昼間定時制の設置をお願いしたい。
- 昼間定時制は、中学校卒業後の選択肢として必要だと思う。
- 通信制課程や昼間定時制課程を設置するなど、多様な学習環境を充実させるよう検討してほしい。
- 不登校特例校の設置を望む。
- 下北地区は地理的な制約が大きく自己完結性が必須である。定員や定時制・通信制のことも含め、決して他地区と同様の条件で語ってほしくない。

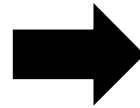
④これまでの統合の事例 I

〈黒石高校〉

普通科 (3cl)
看護科 (1cl)

2学科4学級

統合・新設



〈黒石高校〉

普通科 (3cl)
情報デザイン科 (1cl)
看護科 (1cl)

3学科5学級

〈黒石商業高校〉

商業科 (2cl)
情報処理科 (1cl)
情報デザイン科 (1cl)

3学科4学級



【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 生徒のキャリア教育の充実

④これまでの統合の事例2

〈金木高校〉

普通科(1cl)

1学科1学級

〈板柳高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈鶴田高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈五所川原工業高校〉

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

情報技術科(1cl)

4学科4学級

統合・新設

〈五所川原工科高校〉

普通科(2cl)

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

4学科5学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 工業科の生徒の普通教科の学習の充実

④これまでの統合の事例3

〈十和田西高校〉

普通科(1cl)
観光科(1cl)

2学科2学級

〈六戸高校〉

普通科(2cl)

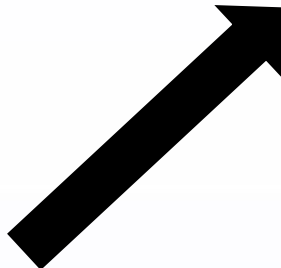
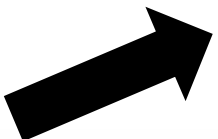
1学科2学級

〈三本木農業高校〉

植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
農業機械科(1cl)
環境土木科(1cl)
農業経済科(1cl)

5学科5学級

統合・新設



〈三本木農業恵拓高校〉

普通科(2cl)
植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
環境工学科(1cl)
食品科学科(1cl)

5学科6学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 農業科の生徒の普通教科の学習の充実

⑤意見交換に当たっての論点

【全日制課程】

- 基本方針、地区の学校の在り方、中学生のニーズ等を踏まえ、令和１４年度における県立高等学校募集学級数の見込みを前提に、各校の学級減や統合等を含め、どのような学校規模・配置が望ましいか。

【定時制課程】

- 生徒のニーズの多様化へ対応し、広く学習機会を提供するため、定時制課程の配置等を維持すべきか。

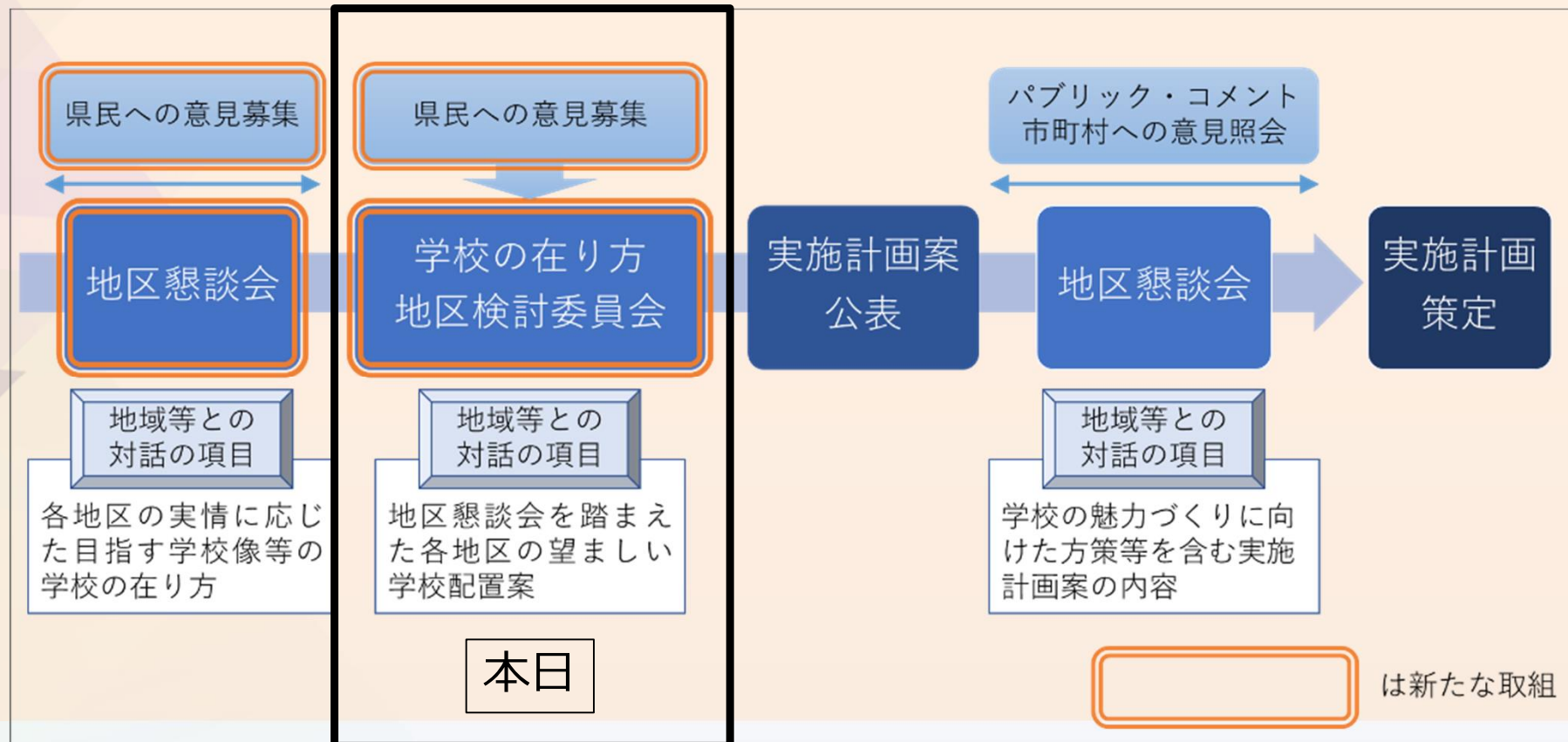
学校の在り方地区検討委員会（三八地区） 【第 1 回】



令和 7 年 1 1 月
青森県教育委員会

学校の在り方地区検討委員会の目的

青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針を踏まえ、実施計画策定に当たりあらかじめ地域の学校教育関係者等で地区の望ましい学校配置等を検討するため、地区ごとに学校の在り方地区検討委員会を設置



スケジュール（見込み）

学校の在り方地区検討委員会（令和7年度）	
	主な検討内容
第1回（11月）	（1）学校の在り方 （2）学校配置
第2回（1月）	（1）第1回委員会における主な意見の確認 （2）望ましい学校配置
第3回（2月）	（1）第2回委員会における主な意見の確認 （2）報告書（案）の確認

報告書の提出
（3月）

県教育委員会（令和8年度）
○前期実施計画案公表 ○前期実施計画案に対するパブリック・コメント、地区懇談会 ○前期実施計画策定（令和8年10月頃）

本日の流れ

1 事務局説明

- ・ 県立高等学校の配置の現状
- ・ 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み
- ・ 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

2 意見交換

- ・ 学校の在り方について
- ・ 学校配置について

I 事務局説明

①令和7年度の学校配置

- : 普通科及び普通科系の専門学科を有する高校
- : 職業教育を主とする専門学科を有する高校
- : 総合学科を有する高校

学校名：地域校



②令和9年度に生徒募集を行う学校（全日制）

募 集 学級数	東青	西北	中南	上北	下北	三八	計
6学級	青森 統合校 青森東 青森工業		弘前 弘前工業 弘前実業	三本木 三本木農業恵拓		八戸 八戸西 八戸工業	12校
5学級	青森北 青森商業	五所川原 五所川原工科	弘前中央 弘前南 黒石	三沢	田名部 統合校	八戸北 八戸東	12校
4学級	青森南 青森中央			十和田工業			3校
3学級		木造 五所川原農林	柏木農業	七戸 百石 三沢商業		八戸水産 八戸商業	8校
2学級					大間※	名久井農業	2校
1学級		鰺ヶ沢※		野辺地 六ヶ所※		三戸※	4校
学校数	8校	5校	7校	9校	3校	9校	41校
学級数	42学級	17学級	36学級	32学級	12学級	37学級	176学級

※ 地域校として配置されており、入学者数に応じて学級数が変動する可能性がある。

③令和9年度に生徒募集を行う学校（定時制・通信制）

	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗	五所川原	尾上総合	三沢	田名部	八戸中央
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

(2) 中学校卒業予定者数及び県立高等学校募集学級数の見込み

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業 予 定 者 数	R9	2,208人	827人	1,933人	1,442人	479人	2,265人	9,154人
	R14 (対R9)	1,894人 (△314)	756人 (△71)	1,816人 (△117)	1,343人 (△99)	392人 (△87)	2,027人 (△238)	8,228人 (△926)
	R19 (対R9)	1,489人 (△719)	552人 (△275)	1,399人 (△534)	1,086人 (△356)	285人 (△194)	1,508人 (△757)	6,319人 (△2,835)
県立高等学校 募集学級数	R9	42c1	17c1	36c1	32c1	12c1	37c1	176c1
	R14 (対R9)	36c1 (△6)	15c1 (△2)	34c1 (△2)	27c1 (△5)	11c1 (△1)	35c1 (△2)	158c1 (△18)
	R19 (対R9)	29c1 (△13)	11c1 (△6)	27c1 (△9)	22c1 (△10)	9c1 (△3)	26c1 (△11)	124c1 (△52)

※ 中学校卒業予定者数は、各年3月の見込み。

※ 地域校及び令和10年度に配置する地域共育校は、学級数が変動する可能性があるため、西北・上北・下北・三八地区においては、募集学級数に変動が生じることがある。

(3) 令和9年度の各校の募集学級数及び令和10年度以降の募集学級数の増減

年度等 学校・学科		第2期 (R5～R9)		前期 (R10～R14)		後期 (R15～R19)		備考
		期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	期間内増減	R19学級数	
八戸高校	普通	0	6					
八戸東高校	普通	△ 1	4					
	表現	0	1					
八戸北高校	普通	△ 1	5					
八戸西高校	普通	0	5					
	スポーツ科学	0	1					
三戸高校	普通	0	1					地域共育校 (R10～)
名久井農業高校	農業	0	2					
八戸水産高校	水産	0	3					
八戸工業高校	工業	0	6					
八戸商業高校	商業	0	3					
計		△ 2	37	△ 2	35	△ 9	26	

2 意見交換

(1) 学校の在り方について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

キーワードⅠ	こどもまんなか	〈4ページ〉
キーワードⅡ	地域とともにある高等学校	〈4ページ〉
キーワードⅢ	生徒の「行きたい」「学びたい」	〈7ページ〉
キーワードⅣ	本県が目指す人財の育成	〈3ページ〉

②現在の各県立高等学校に求められる役割 (スクールミッション)

※参考資料Ⅰを参照

③三八地区懇談会等における学校の在り方に関する意見

- 高校はある程度の学校規模が必要である。地域によっては高校を残す必要もあると思うが、部活動等の教育活動を含む高校生活の中で、多様な他者と関わりながら成長していくものとする。
- 一定規模の高校がいくつもある状態が理想的であるが、個別最適な学びの観点から、小規模校であっても地域との関わりが深い高校は郡部に必要である。
- 多様な生徒への対応として、中学校になじめなかった生徒がリスタートできる高校が必要である。
- こどもたちを競争させるのではなく、一人一人を大事にする高校が必要である。

④意見交換に当たっての論点

- 地域にはどのような特色（産業、地理等）があるのか。
- キーワードや地域の特色等を踏まえ、地区においてどのような人財を育成する学校が必要なのか。
- 地域とともにある高等学校として、何を期待するのか。
また、地域としてどのような協力ができるのか。

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程〉

学校配置の観点 （P21）

○高等学校教育を受ける機会の確保

〈中学生の進路志望の選択肢の確保〉

６地区ごとに「大学等への進学や就職等、幅広い進路選択に対応する高校」、「多様な目標を持つ生徒同士の学び合いの機会を提供する高校」、「実践的な職業教育を提供する高校」、「柔軟な学びを提供する高校」等、様々な役割を担う高等学校を配置

〈通学環境への配慮〉

地理的要因から通学困難な地域が新たに生じないように配慮

○充実した教育環境の整備

生徒の進路志望等に応じた特色ある教育活動を更に充実させながら、各校の果たす役割を踏まえた教育環境の整備を進め、高等学校教育の質の確保・向上

（２）学校配置について

①青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針

〈全日制課程における学校配置の考え方〉（P22）

- 将来の中学校卒業予定者数の減少、中学生のニーズ、地域の産業、通学環境、国の高等学校教育改革の動向等を考慮しながら様々な役割を担う高等学校を配置
- 生徒の進路志望や興味・関心等の学習ニーズに応じた柔軟で質の高い学びを提供できる教育環境を整備するため、市町村における高等学校の配置状況等を考慮しながら統合等を含む計画的な学校配置について検討

〈定時制課程・通信制課程〉

定時制課程における学校配置の方向性（P23）

- 定時制課程については、６地区ごとの配置を基本

通信制課程における学校配置の方向性（P23）

- 通信制課程については、東青、中南及び三八地区の配置を基本

②令和１０～１４年度までの三八地区の学級数の減

３７学級から３５学級へ（２学級の減）

③三八地区懇談会等における学校配置に関する意見

- 郡部の高校は存続させてほしい。
- 商業高校、水産高校、農業高校については定員割れが顕著であり、これらの高校が単独校として存続するイメージがつかない。小規模校として残すことを考えるよりも、統合しキャンパス制とするほうがよいのではないか。
- こどもがいる地域は、高校を存続させるべき。
- 一律に学級減で対応するのではなく、市部の高校は統合して教育の質を確保することが必要である。
- こどもが減っているため統廃合は仕方ないが、一極集中しすぎている。せめて小規模の進学校を県内に満遍なく設置することはできないか。

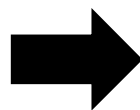
④これまでの統合の事例 I

〈黒石高校〉

普通科(3cl)
看護科(1cl)

2学科4学級

統合・新設



〈黒石高校〉

普通科(3cl)
情報デザイン科(1cl)
看護科(1cl)

3学科5学級

〈黒石商業高校〉

商業科(2cl)
情報処理科(1cl)
情報デザイン科(1cl)

3学科4学級



【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 生徒のキャリア教育の充実

④これまでの統合の事例2

〈金木高校〉

普通科(1cl)

1学科1学級

〈板柳高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈鶴田高校〉

普通科(2cl)

1学科2学級

〈五所川原工業高校〉

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

情報技術科(1cl)

4学科4学級

統合・新設

〈五所川原工科高校〉

普通科(2cl)

機械科(1cl)

電子機械科(1cl)

電気科(1cl)

4学科5学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 工業科の生徒の普通教科の学習の充実

④これまでの統合の事例3

〈十和田西高校〉

普通科(1cl)
観光科(1cl)

2学科2学級

〈六戸高校〉

普通科(2cl)

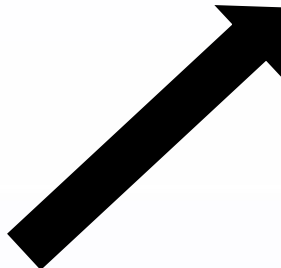
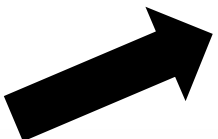
1学科2学級

〈三本木農業高校〉

植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
農業機械科(1cl)
環境土木科(1cl)
農業経済科(1cl)

5学科5学級

統合・新設



〈三本木農業恵拓高校〉

普通科(2cl)
植物科学科(1cl)
動物科学科(1cl)
環境工学科(1cl)
食品科学科(1cl)

5学科6学級

【統合の目的】

- 学校規模を維持することによる充実した教育環境の整備
- 普通科の生徒のキャリア教育の充実
- 農業科の生徒の普通教科の学習の充実

⑤意見交換に当たっての論点

【全日制課程】

- 基本方針、地区の学校の在り方、中学生のニーズ等を踏まえ、令和１４年度における県立高等学校募集学級数の見込みを前提に、各校の学級減や統合等を含め、どのような学校規模・配置が望ましいか。

【定時制・通信制課程】

- 生徒のニーズの多様化へ対応し、広く学習機会を提供するため、定時制課程・通信制課程の配置等を維持すべきか。